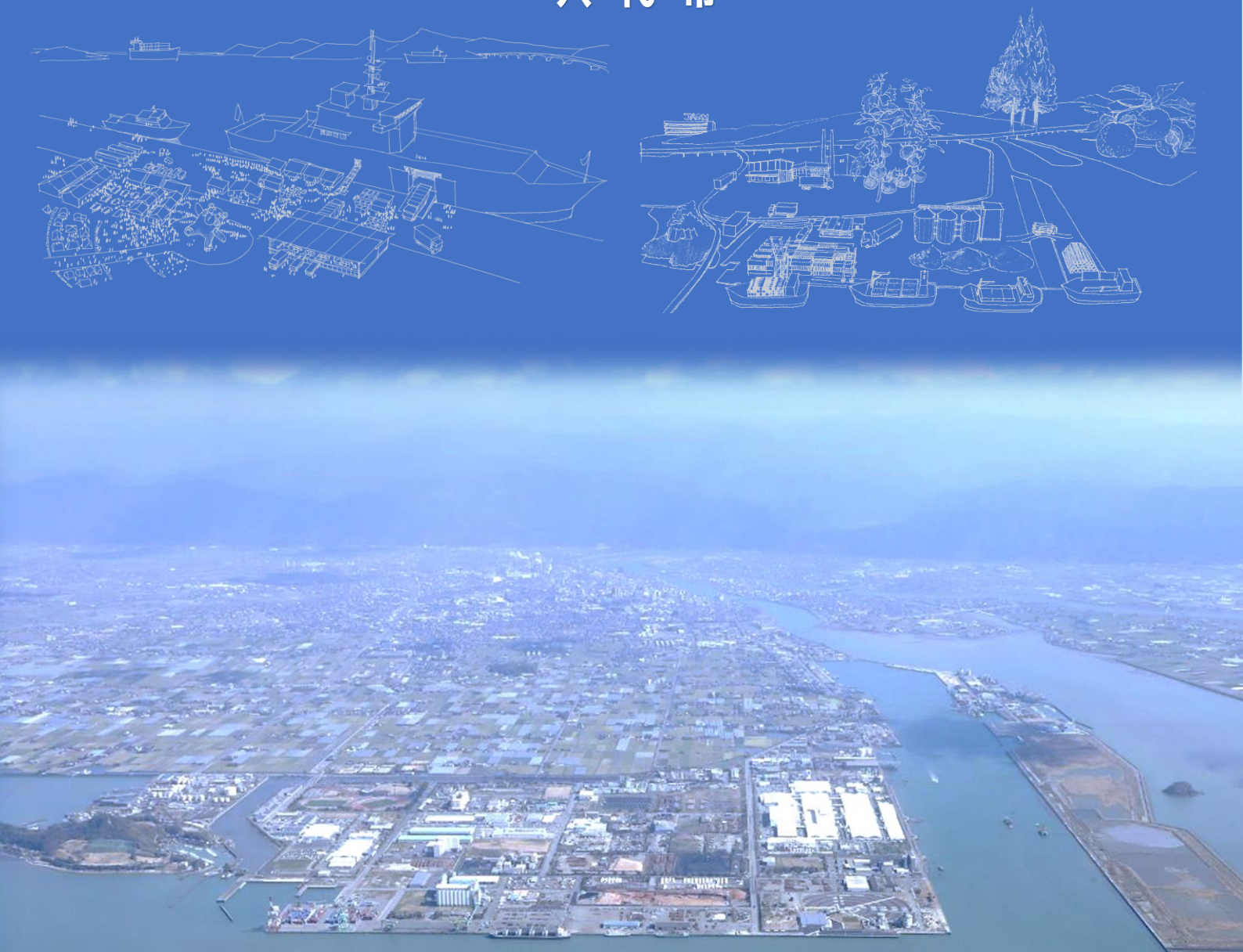




八代港を核とする 将来的な成長ビジョン

令和5年（2023年）3月

八代市



目次

I. 計画の目的と八代港の概要

1. 計画の目的と位置づけ	2
2. 八代港の歴史・沿革	3
3. 八代港を取り巻く環境	4
(1) TSMC の熊本進出による効果	4
(2) 社会情勢の変化	6
(3) SDGs 未来都市	7

II. 八代港の現況と課題

1. 位置と特性	10
(1) 八代港	10
(2) 港湾地区	10
2. 現況	11
(1) 貨物輸送	11
(2) 旅客輸送	12
(3) 防災対応	12
(4) 港湾エリアの活用	13
3. 八代港の課題と期待	14
(1) 物流	14
(2) 人流	16
(3) 防災機能強化	17
(4) 港湾エリアの活用	18

III. 成長に向けた事業展開

1. 八代港の将来像	23
八代港の将来イメージ	24
2. 将来像	26
(1) 物流	26
(2) 人流	28
(3) 防災	30
(4) 産業集積	32
(5) 担い手確保	33
(6) デジタル技術の活用	34
(7) カーボンニュートラル	35

I . 計画の目的と八代港の概要

1 . 計画の目的と位置づけ	2
2 . 八代港の歴史・沿革	3
3 . 八代港を取り巻く環境	4
(1) TSMC の熊本進出による効果	4
(2) 社会情勢の変化	6
(3) SDGs 未来都市	7

1 計画の目的と位置づけ

八代港は社会の変化に対応しながら南九州の主要産業を支え、県下最大の貿易港として発展してきました。

近年においても、コンテナヤードの移設・拡張、くまモンポート八代の整備やCFS倉庫の完成など着々と成長を続けており、今後はTSMC*1の本県進出を契機とした輸出入貨物の増加も見据えた新たな取組みも必要となっています。

本ビジョンは、これまでの八代港の歩みに加え、脱炭素化の加速やデジタル技術の革新等、急激な社会変化が想定される将来においても、八代港が産業活動や市民生活にとって必要不可欠な役割を果たすことができるよう、将来の姿を設定し、その実現に向けた八代市としての取組方針等を策定するものです。

関係機関及び民間企業において八代港発展の将来像を共有し、八代港及び周辺地区の利活用による地域産業の競争力強化と地域経済の発展を目指すため、短期（概ね5年以内）、中期（概ね10年以内）、長期（10年以降）を設定します。

【計画の位置づけ】

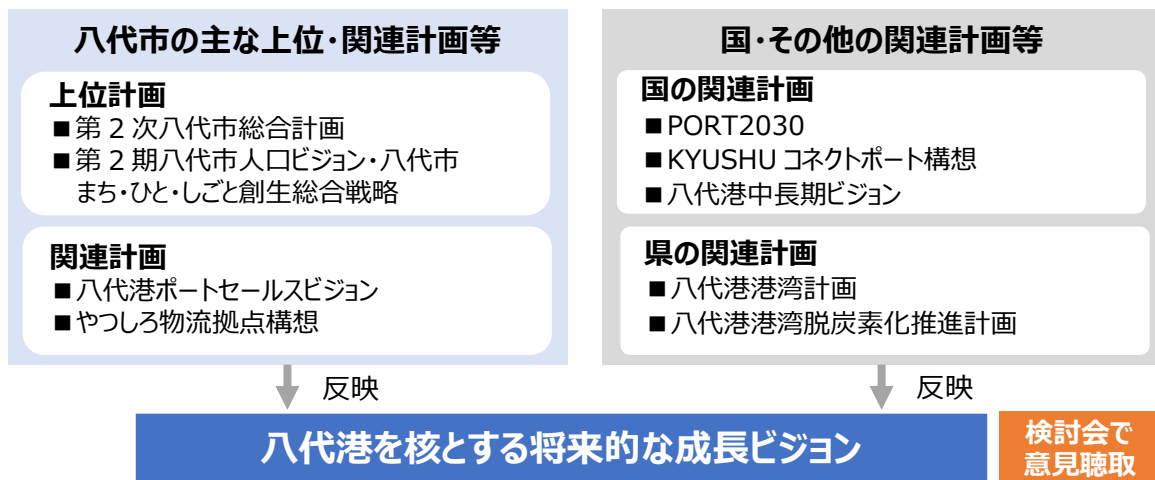


図 I-1 計画の位置づけ

【計画期間】

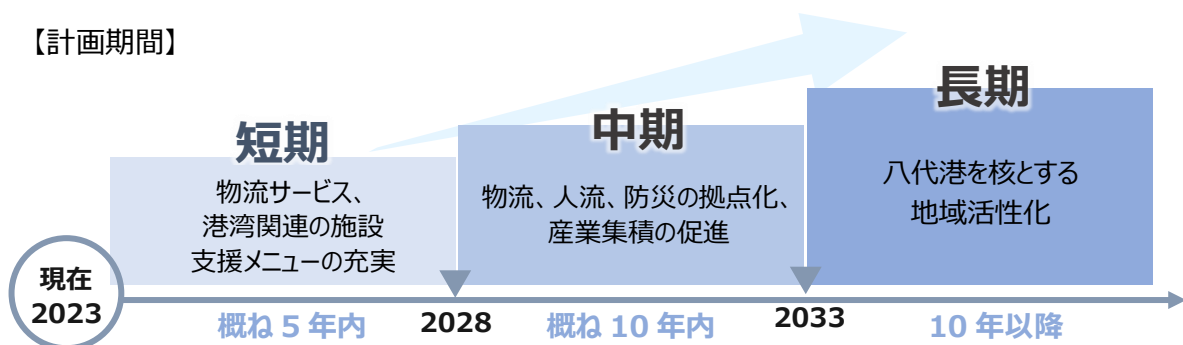


図 I-2 計画期間

※なお、本ビジョンにおける施策等は、対象範囲が広範にわたるものであり、港湾を中心に多様な関係者の連携を促し、港湾地域や周辺地域の発展に幅広く寄与することを目指すものです。港湾関係者や市民が親しみをもち、八代港港湾計画等と連動した取組みを進めていくことが、八代港を中心とした地域の発展につながるものと想定して設定したものであり、事業の実施や完了が約束されているものではありません。

*1 TSMC : 台湾積体電路製造 (Taiwan Semiconductor Manufacturing Company) 半導体受託生産の世界最大手

2 八代港の歴史・沿革

八代港は、球磨川の河口港として古い歴史があり、米・木材・海産物等の物資輸送の拠点として、また、海外交易の要衝として栄えてきました。その重要性は豊臣秀吉や、小西・加藤・細川・松井らゆかりの武将たちに受け継がれ、熊本県南地域の発展に寄与してきました。

明治時代に企業の進出を受けて港湾整備が進み、戦後は港湾と河川が分離されるなど外貿対応施設の整備が進められ、後背地には五大工場*2が立地するなど熊本県で最大の国際貿易港となっています。

八代港における工業用地は、製造業を主とした産業が集積（飼料関連、アルミ建具関連、石油関連、製紙関連、船外機製造、セメント関連など）しており、飼料生産については中九州の拠点（飼料の原料輸入及び生産拠点）となっています。そして、原木の輸出に関しては、取扱量、取扱額ともに全国トップ3に入っています。

1872年	蛇竈港（八代港発祥の地）完成
1916年	内務省の指定港湾に指定
1922年	十條製紙（日本製紙）八代工場の立地
1948年	運輸省八代港工事事務所の設置
1959年	重要港湾指定
1961年	直轄工事として外港地区建設開始
1962年	出入国港指定
1965年	外港地区岸壁(水深 9m) , 岸壁(水深 7.5m) 完成
1966年	関税法上の開港指定を受ける/外港地区岸壁(水深 7.5m)第 2 バース完成
1973年	外港地区岸壁(水深 10m) 第 1 バースの完成/YKK AP、熊本くみあい飼料の立地 検疫法に基く検疫指定港となる
1979年	外港地区岸壁(水深 10m) 第 2 バース完成
1980年	九州縦貫自動車道八代インターチェンジの開通
1983年	外港地区岸壁(水深 10m) 第 3 バース完成
1985年	外港地区岸壁(水深 10m) 第 4 バース完成
1990年	ヤマハ熊本プロダクツの立地
1992年	外港地区岸壁(水深 12m) 第 1 バース完成
1993年	八代飼料の立地
1994年	外国産食糧の輸入港に指定
1996年	第 1 期サイロ完成〔パシフィックグリーンセンター〕/八代港臨港線の開通
1999年	外港地区岸壁(水深 12m) 第 2 バース完成/韓国との国際定期コンテナ航路が開設
2007年	外港地区国際物流ターミナルに工事着手
2013年	外港地区岸壁(水深 14m) , 泊地(水深 14m)完成 (3月)
2017年	国際旅客船拠点形成港湾指定
2018年	新コンテナターミナル供用開始
2020年	耐震強化岸壁を含むくまモンポート八代の完成 (4月)
2021年	台湾との国際定期コンテナ航路が開設される (1月)
2022年	CFS 倉庫の供用開始 (7月)

図 I -3 八代港のあゆみ 資料：国土交通省九州地方整備局

*2 五大工場：日本製紙株式会社、ヤマハ熊本プロダクツ株式会社、YKK AP 株式会社、興人フィルム&ケミカルズ株式会社、メルシャン株式会社

3 八代港を取り巻く環境

(1) TSMC の熊本進出による効果

① TSMC 進出の県内への期待

2021年11月、半導体受託生産の世界最大手である TSMC の熊本県への進出（菊池郡菊陽町への新工場建設）が発表されました。

同社の進出により、県経済へも大きな波及効果が見込まれており、半導体関連産業等の生産や設備投資などが活発化するとともに十年間で4兆円を超える経済効果と7千人を超える雇用を生む、と試算されています。

分類		経済波及効果	算出範囲
生産（年間） ×2025年～7年間		4,102 億円	・JASM*3 工場生産 + 関連産業生産（2025.1～） ・生産増加に伴う就業者・消費増加等効果
投資	JASM（10年間）	9,321 億円	・JASM 工場・装置
	関連産業（〃）	2,744 億円	・関連産業工場・設備
	工業団地（〃）	779 億円	・工業団地開発
	住宅（〃）	1,362 億円	・住宅関連設備
「生産 + 投資」経済波及効果 10年間累計 = 4兆2,921 億円 （2022年～2031年）			

図 I -4 TSMC に関する経済波及効果 資料：公益財団法人地方経済総合研究所

また、周辺には新たに半導体関連企業の増設や進出も進んでおり、九州が新しいシリコンアイランドとして発展するためには、サプライチェーンや半導体産業クラスターを支える港湾の存在が重要となります。

八代港においても、国内経済をけん引する製造業をはじめ、国内外の多くの企業からメインポートとして選ばれるような港湾の機能強化が求められています。

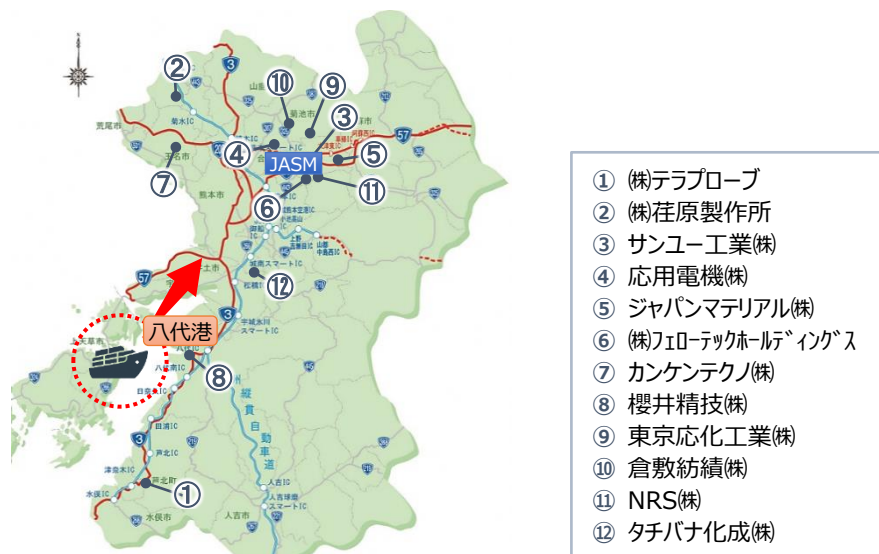


図 I -5 TSMC 進出発表後の半導体関連企業の立地状況(2022.12 時点) 資料：公益財団法人地方経済総合研究所作成

*3 JASM：Japan Advanced Semiconductor Manufacturing 株式会社。TSMC が過半数を出資する熊本工場の運営を担う子会社。

② 八代市としての動き

熊本県内への TSMC の進出に伴い、八代市では 2021 年 12 月に庁内横断組織である「八代港利活用促進等推進本部」を設立し、八代港を半導体物流の拠点として成長させるための方策について検討を開始しました。

併せて、関係機関や船社、荷主企業へのヒアリングなど関連貨物の八代港利用を促すための取組みを進めています。

③ 八代港のさらなる成長機会

今後は、熊本県下最大の貿易港である八代港を活用した建設資材及び半導体向け原材料等の輸入や製品の輸出が活発化し、コンテナ貨物をはじめとする貨物の取扱量増加が想定されています。

こうした物流面での好機を八代市経済のさらなる浮揚へつなげるため、高圧ガスや危険物等の他港では取り扱いが難しい品目への対応を図るなど他港との差別化を図ることに加え、臨港道路など八代港を起点とする道路ネットワークの機能強化や関連企業の誘致に対応する用地の確保などが必要になっています。

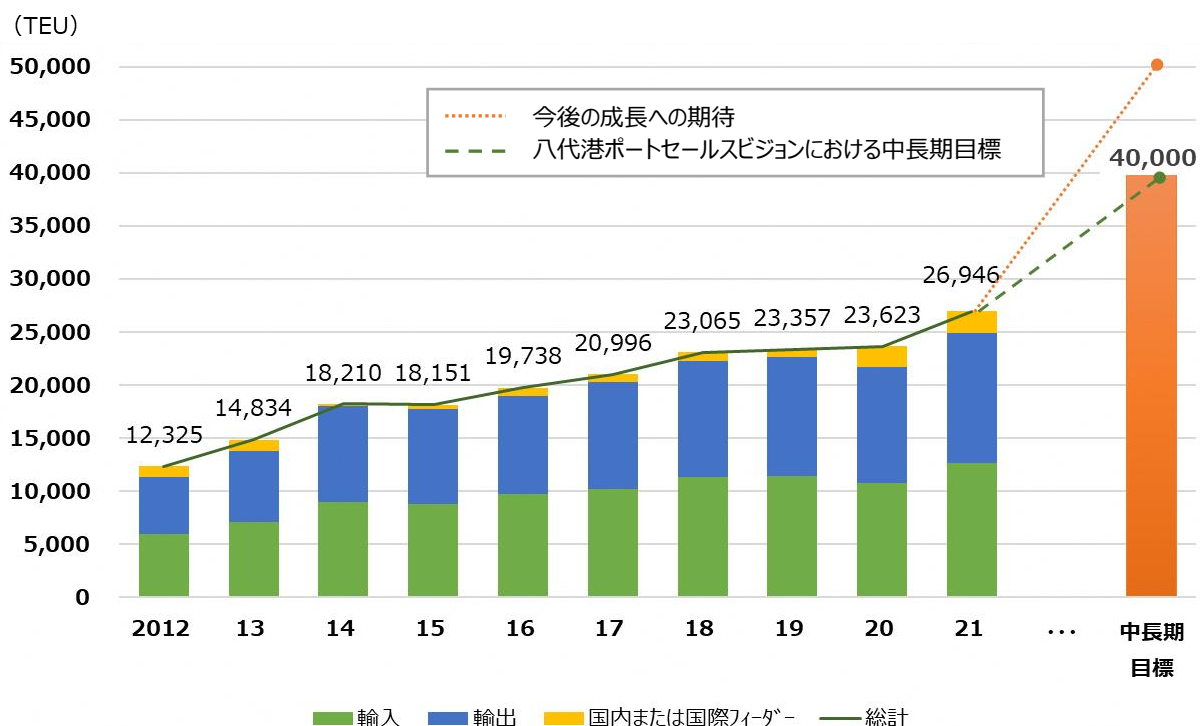


図 I-6 八代港のコンテナ取扱量の推移と中長期目標

資料：公益財団法人地方経済総合研究所作成

(2) 社会情勢の変化

① 経済社会のカーボンニュートラル*4化

2020年10月、我が国は「2050年カーボンニュートラル」を宣言し、2021年4月には、「2030年度に、温室効果ガスを2013年度から46パーセント削減することを目指す。」ことを表明しています。また、八代市でも2022年2月に二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指す「八代市ゼロカーボンシティ宣言」を公表しています。

八代港をはじめとする重要港湾においても、「カーボンニュートラルポート*5」化に向けて港湾地域や周辺地域の脱炭素化に取り組むことが求められています。

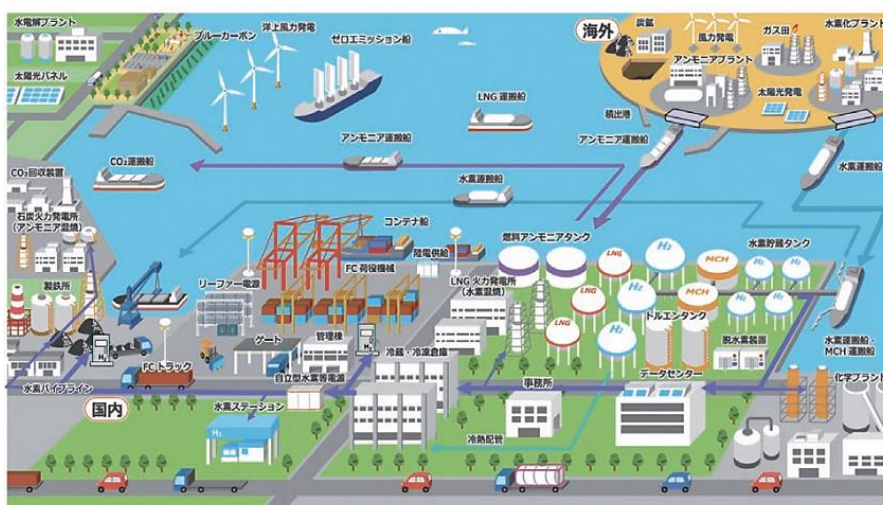


図 I-7 カーボンニュートラルポートの形成イメージ

資料：国土交通省「カーボンニュートラルポート（CNP）形成計画」策定マニュアル（初版）」

② デジタル化等の技術革新

社会全体のデジタル化の進展を見据え、港湾の生産性を向上させ、港湾を取り巻く情報が有機的につながる事業環境を実現するため、「港湾関連データ連携基盤（サイバーポート）」の構築が進められています。

八代港においても、業務の効率化や省力化、労働力不足等の課題解消を図るため、物流業務の電子化などによる港湾 DX の推進が求められています。

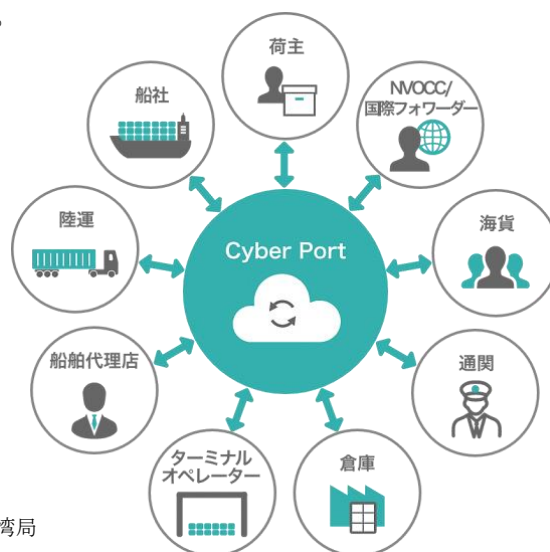


図 I-8 サイバーポートの特長

資料：国土交通省港湾局

*4 カーボンニュートラル：温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させ、発生量を実質ゼロにすること

*5 カーボンニュートラルポート：港湾において、水素・燃料アンモニア等の大量・安定・安価な輸入や貯蔵等を可能とする受け入れ環境の整備や、脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化等を通じて温室効果ガスの排出を全体としてゼロにすることを目指す施策

(3) SDGs*6 未来都市

八代市は SDGs 未来都市に選定されており、本市がさらなる発展を遂げるためには多様なステークホルダーとの連携により、経済面・社会面・環境面で持続可能な取組みを促進していく必要があります。

SDGs の推進は総合計画、まち・ひと・しごと総合戦略、環境基本計画等をはじめとする各種計画で掲げる将来像を実現するためにも重要な役割を担っています。

国際貿易港であり、製造業を中心とした多様な企業が立地する八代港においても、経済・社会・環境の三側面において、SDGs の観点を取り入れた取組みを進めることで、「持続可能な人と企業に選ばれるまち」づくりへの原動力となることが期待されています。

新たなつながりの創出で、「持続可能な人と企業に選ばれるまち」づくり

2030 年のあるべき姿

経済	産業・雇用が安定した、 働きたいまち
社会	地域資源を活かし、多様な交流のできる、 住みたいまち 安心して子どもを産み育てることができる、 育てたいまち
環境	地球環境への負荷が少ない、 低炭素なまち



2 飢餓をゼロに



3 すべての人に健康と福祉を



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



8 働きがいも経済成長も



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



11 住み続けられるまちづくりを



12 つくる責任 つかう責任



13 気候変動に具体的な対策を



17 パートナリシップで目標を達成しよう

図 I-9 SDGs の視点から見た計画の位置付け

*6 SDGs : Sustainable Development Goals : 誰一人取り残さない持続可能な社会の実現を目指す世界共通の目標

Ⅱ．八代港の現況と課題

1. 位置と特性	10
(1) 八代港	10
(2) 港湾地区	10
2. 現況	11
(1) 貨物輸送	11
(2) 旅客輸送	12
(3) 防災対応	12
(4) 港湾エリアの活用	13
3. 八代港の課題と期待	14
(1) 物流	14
(2) 人流	16
(3) 防災機能強化	17
(4) 港湾エリアの活用	18

1 位置と特性

(1) 八代港

八代港は韓国、中国、台湾、東南アジアなどのアジア諸国と近い地理的条件を有しており、韓国・釜山までは約 300 km、中国・上海まで約 900 km、台湾・基隆まで約 1,200km の距離に位置しています。国内では、東京から約 900 km、大阪から約 500 km、福岡から約 120 km に位置し、八代港から 10 km 圏内に九州自動車道及び南九州西回り自動車道の八代 IC、国道 3 号線と八代港を連結する八代港線が所在しています。とりわけ、八代 IC から、福岡 IC まで 130 分、鹿児島 IC まで 110 分など、九州内の主要都市までのアクセスの良さは、八代港が持つポテンシャルの一つです。

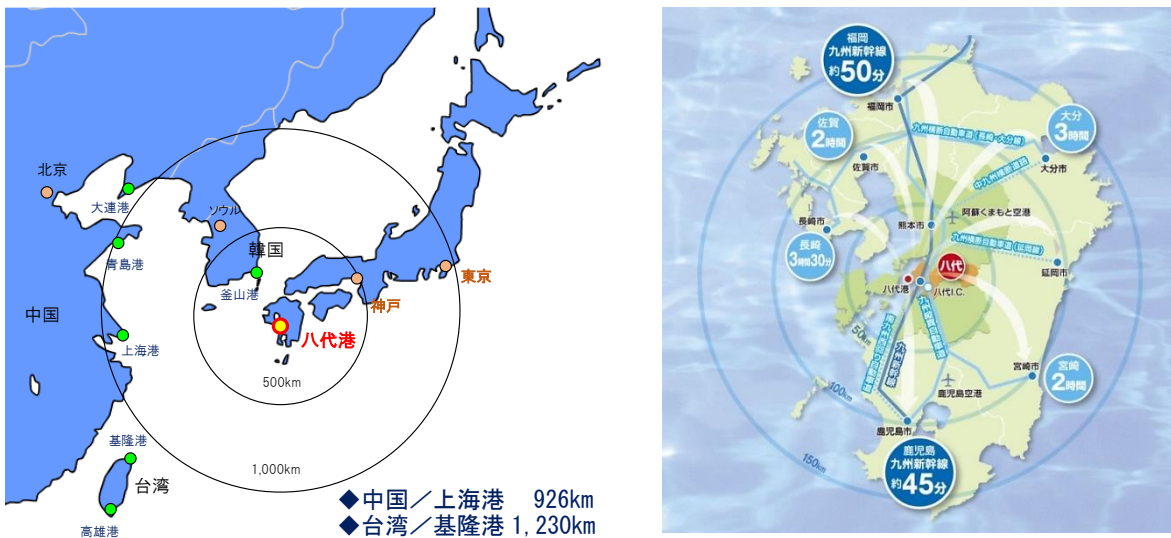


図 II - 1 八代港までのアクセス距離

(2) 港湾地区

八代港が中核を成す港湾地区は、物流拠点として県内はもとより、南九州の企業の貿易には欠かせない地区となっています。人流に関しても、国際旅客船拠点形成港湾指定を受け、クルーズ船寄港による賑わいを生み出しています。また、八代市環境センターや八代共同魚市場、石油基地等が立地し、市民生活を支えています。



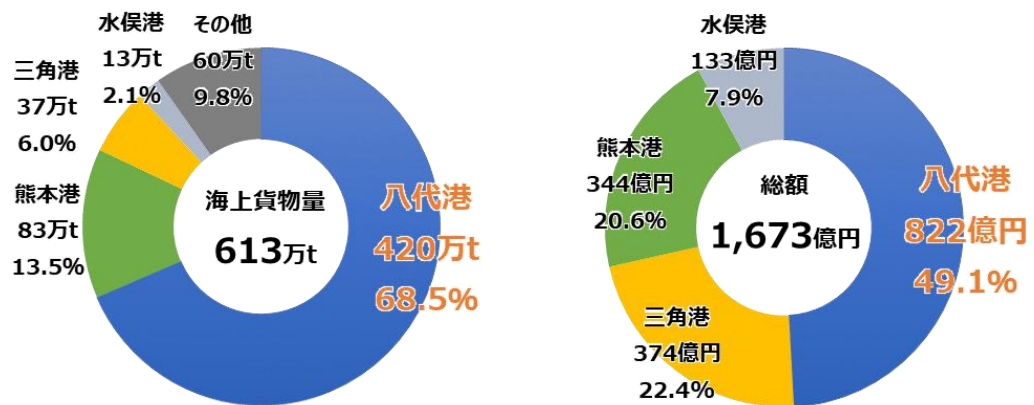
図 II - 2 八代港港湾地区の位置

2 現況

(1) 貨物輸送

① 輸出入総額、海上貨物量

八代港は、南九州の物流拠点としてバルク貨物*7 や国際コンテナ貨物の取扱いが順調に増加し、輸出入総額及び海上貨物量はともに熊本県内トップの地位にあります。特に、バルク貨物は古くから八代港の背後企業を支えており、国際コンテナ貨物については、時代の移り変わりに合わせて様々な国や地域との貿易が行われています。

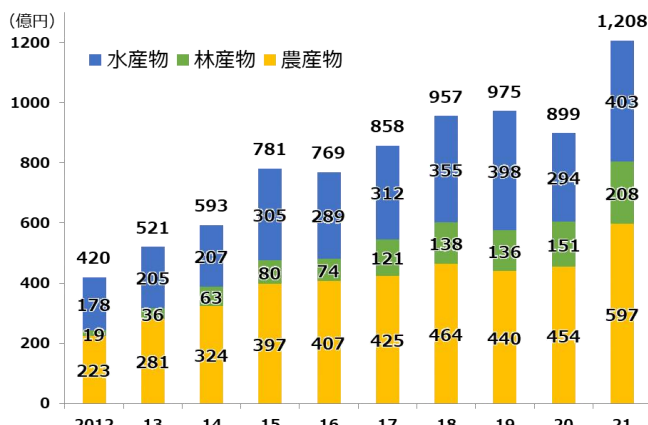


資料：八代税関支署 管内貿易概況
資料：港湾統計年報
図Ⅱ-3 2021年 熊本県内港 輸出入総額/海上貨物量

② CFS 倉庫 (小口貨物の集積、保管、蔵置する輸出入貨物の荷捌き場所) の整備

国による農林水産物・食品輸出拡大の取組みにより、九州の農林水産物・食品輸出額は 2021 年に過去最高となっており、今後も大きな伸びが期待されています。

八代港においても、2022 年 7 月にはコンテナターミナル内に小口混載が可能となる CFS 倉庫が供用開始しており、地理的優位性を活かした集貨対策、産地に直結した輸送体制の強化に加え、将来的な取扱貨物量増加を見据えたさらなる物流機能の強化が求められています。



図Ⅱ-4 九州の農林水産物・食品輸出額 資料：九州農政局



CFS 倉庫の外観 資料：八代市

*7 バルク貨物：船舶に梱包されない（ばら）の状態に積載されるばら積み貨物のこと

(2) 旅客輸送

外国人入国者数が2018年に過去最高の512万人を記録するなど、九州はインバウンド*8拡大に沸いていましたが、コロナ禍で2020年の九州への外国人入国者数は、約40万人と大幅に減少しています。

八代港へのクルーズ船寄港もコロナ禍で落ち込んでいますが、ウィズコロナで今後外航クルーズ客船の増加が見込まれる中、寄港回数の回復に向けて「くまモンポート八代」を起点にした受入環境の整備、体制の強化が進んでいます。

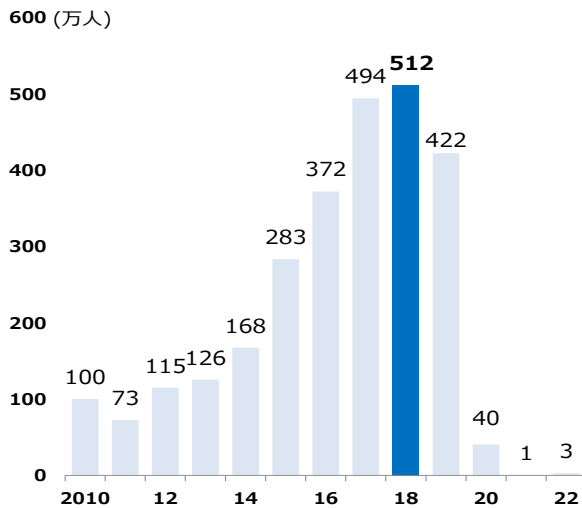


図 II-5 九州の外国人入国者数

資料：九州運輸局「九州への外国人入国者数の推移」

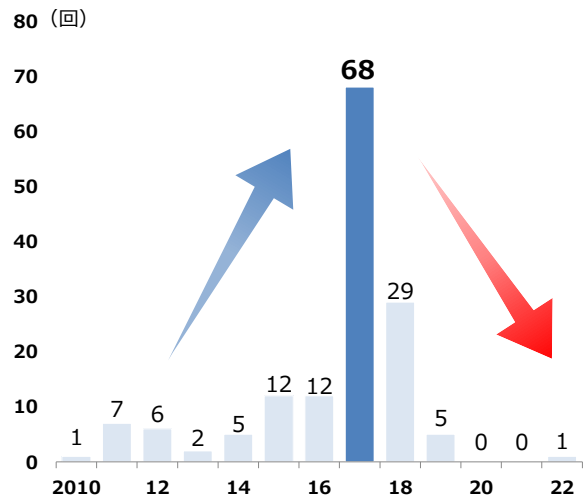


図 II-6 八代港 クルーズ船寄港回数

資料：国交省海事局外航課 報道資料発表

(3) 防災対応

2016年4月の熊本地震発生後、断水や陸上交通網が寸断された中、八代港においては早い段階から飲料水や入浴サービスの提供、船舶による緊急物資や部隊の輸送といった被災地支援が港湾を拠点として展開されました。また、2020年7月豪雨の際にも、県内唯一の耐震強化岸壁を用いた給水支援や行方不明者の一斉捜索が行われるなど、八代港は災害時における防災拠点としての港湾の重要性が改めて認識されており、定期的な防災訓練を実施しながら命と暮らしを守る交通ネットワークの形成に貢献しています。



熊本地震 自衛隊による災害派遣/ 2016.4.25



2020年7月豪雨合同一斉捜索/2020.7.20

*8 インバウンド：外から中に入ってくることを意味し、旅行では外国人観光客を指す

(4) 港湾エリアの活用

①みなとオアシス八代

2021年7月31日に、八代港が「みなとオアシス八代」として認定されました。

「みなとオアシス」は、海浜・旅客ターミナル・広場等、みなとの施設やスペースを活用して住民による地域振興の取組みが継続的に行われている施設を国土交通省港湾局長が登録するもので、八代港では旅客ターミナルやくまモンポート八代、エコエイトやつしろ等の6施設が登録されました。

2022年には、「みなと八代フェスティバル」や「SEA級グルメ in 八代大会」が開催されるなど、今後は港湾エリアが地域住民の交流促進や地域の魅力向上の中心になることが期待されます。



旅客ターミナル



くまモンポート八代



みなと八代フェスティバル

②八代・天草シーライン構想

八代港を經由して八代地域と天草地域を結ぶ「八代・天草シーライン」の実現により天草地域へのアクセスが飛躍的に向上することが期待されています。

クルーズ拠点である「くまモンポート八代」と連動した観光面での期待とともに、産業面、防災面でも八代港を起点とした市場の拡大やアクセスルートの確保など大きな効果が期待されることから、計画実現に向けた官民一体となった取組みが必要です。



「八代・天草シーライン」イメージ図

図Ⅱ-7 八代・天草シーラインイメージ図

資料：八代・天草シーライン建設促進民間協力期成会

3 八代港の課題と期待

TSMC の熊本県進出など八代港を取り巻く情勢が変化中、これまで関連計画や各種アンケートなどから提起された同港に関する課題を整理しました。そのうえで、港湾事業者及び八代港利用企業を対象に八代港が将来的に成長するために期待する取り組み等について、アンケート調査やヒアリング調査を実施し、八代港に求められる機能を明らかにしました。

【八代港の将来的な成長ビジョン策定に関するアンケート調査】の実施概要

【調査時期】	令和4年9月12日(月)～9月30日(金)
【調査対象者】	港湾事業者及び八代港利用企業 126件
【回答数】	69件
【回収率】	54.7%

(1) 物流

① 国際コンテナ航路サービス

課題

九州北部港と比較すると、便数・航路数ともに少なく、県内を含む南九州の貨物の多くは利便性の高い九州北部港を利用しています。今後の成長のためには、より一層の利便性向上が課題となっています。

期待

半導体関連貨物など新規の貨物が増える見込みであることから、新規航路の誘致を行うことで他港との競争力が高まり、利用拡大につながることが期待されています。



八代港利用企業の物流に関する期待

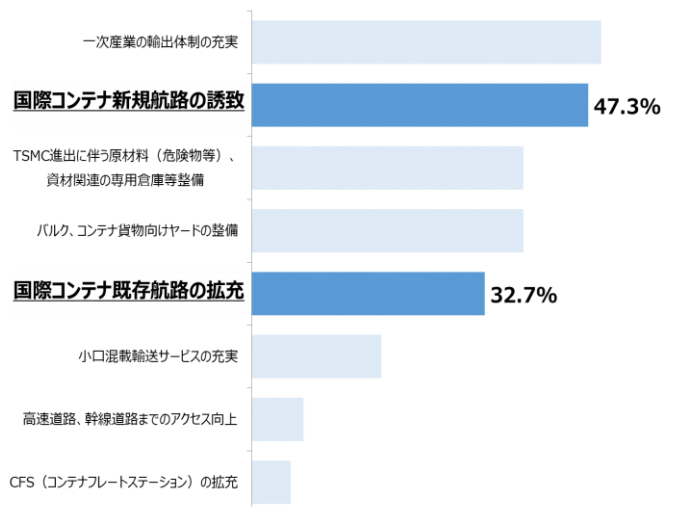


図 II -8 九州内各港国際コンテナ航路数・便数(月換算)(2023.1時点)

資料：公益財団法人地方経済総合研究所作成

② 移輸出入の拠点化

課題	バルク、コンテナ貨物ともに蔵置場や倉庫が少ないことで、貨物の集約が進んでおらず、特にコンテナ貨物については県内で生産・消費されるものが他港に流出していることが課題となっています。
期待	新規貨物に対する専用倉庫の整備やヤード利用の効率化、港湾エリアにおける動線の整備を行うことで、貨物の集約による物流の拠点化につなげることができま。併せて、モーダルシフト*9による輸送コストの削減を提案していくことで、さらなる利用拡大が期待されています。

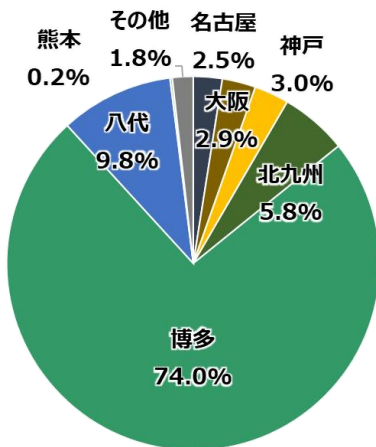
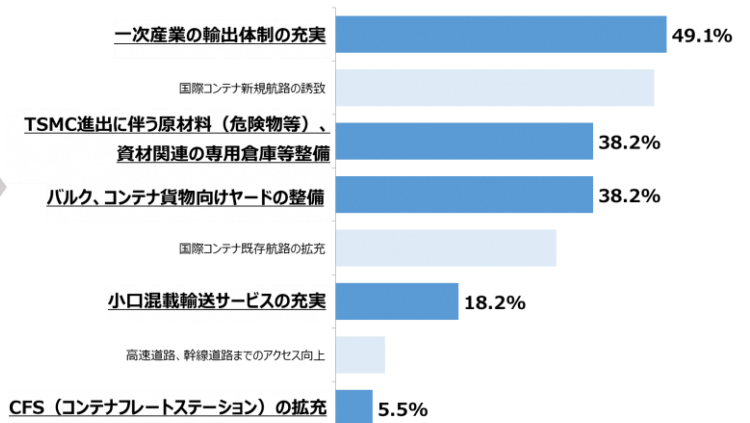


図 II-9 熊本県内生産貨物の輸出港利用割合
資料：国土交通省「平成30年度全国輸出入コンテナ貨物流動調査」

八代港利用企業の物流に関する期待



③ 地域産業の活性化

課題	八代市の人口は減少トレンドにあり、将来にわたり安定した市政運営を図るためには、一人当たりの生産性を高め、地域内産業の活性化を図っていく必要があります。
期待	八代港においては、物流面での機能強化、域内農林水産物の移輸出促進を進めることで、背後企業の成長へとつなげることが期待されています。また、将来的には八代・天草シーラインと連動した天草地域との経済連携についても大きく期待されています。

八代港利用企業の物流に関する期待

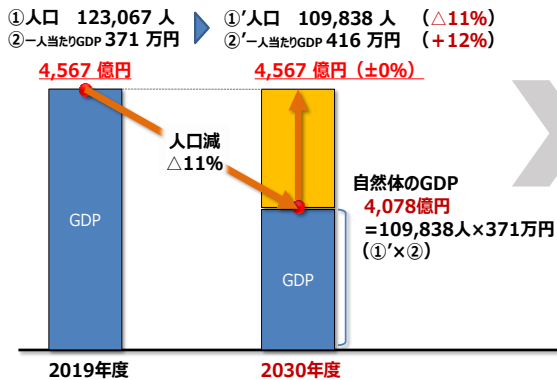
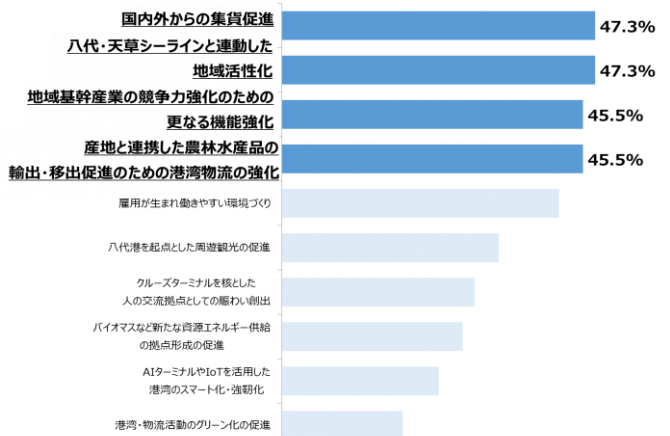


図 II-10 八代市の GDP 推計
資料：公益財団法人地方経済総合研究所作成

*9 モーダルシフト：トラック等の自動車で行われている貨物輸送を環境負荷の小さい鉄道や船舶の利用へと転換すること

(2) 人流

① 市内での賑わい創出

課題

九州を訪れるインバウンド一人当たりの観光消費額は全国平均の約 5 割にとどまっており、クルーズ船寄港の効果を地域内へ還元する仕組み作りが課題となっています。

期待

今後のクルーズ需要の高まりに合わせて、新たな寄港船社の誘致活動に加え、観光コンテンツやおもてなしの充実による、市内経済の活性化が期待されています。

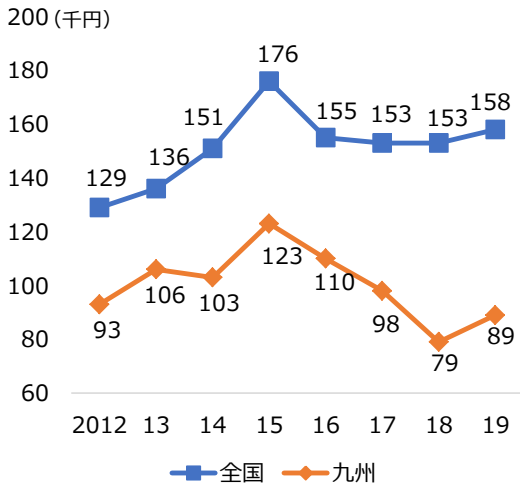
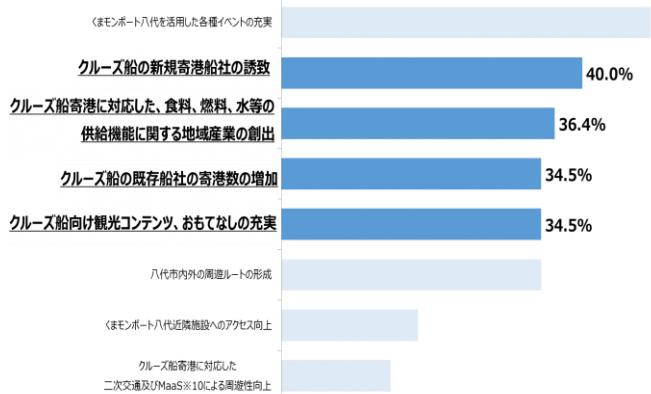


図 II-11 インバウンド一人当たりの観光消費額

資料：観光庁、(一社)九州観光推進機構資料より作成

八代港利用企業の人流に関する期待



② 地域連携による観光周遊の促進

課題

大型クルーズ船の寄港によるインバウンドの経済効果を高めるためには、八代市近隣市町村等との連携強化による多様な観光ニーズへの対応が課題となっています。

期待

くまモンポート八代を活用したイベントの充実や近隣施設へのアクセス向上だけでなく、八代港を起点とした地域外への周遊による経済効果の波及が期待されています。

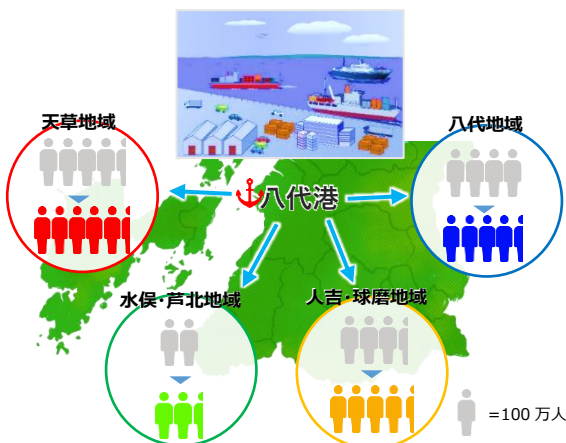
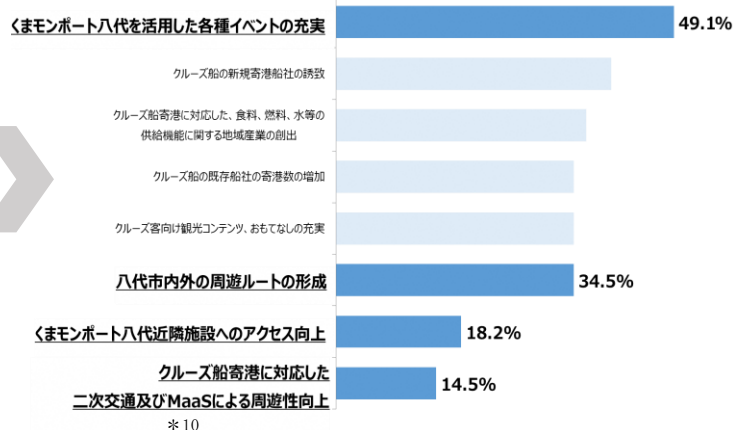


図 II-12 八代港を起点とした周遊による観光客増加

資料：公益財団法人地方経済総合研究所作成

八代港利用企業の人流に関する期待



*10 MaaS：バスや電車、タクシー、飛行機など、すべての交通手段による移動を一つのサービスに統合し、ルート検索から支払いまでシームレスにつながるごと

(3) 防災機能強化

① 地域のレジリエンス*11 強化

課題	頻発化・激甚化する自然災害への不安が高まっており、災害時でも市民生活や産業活動を維持するための支援体制の構築が課題となっています。
期待	八代港においても、耐震強化岸壁を活用した支援体制の整備や近隣住民の避難機能の強化を進めることで、災害対応力を高めていくことが期待されています。

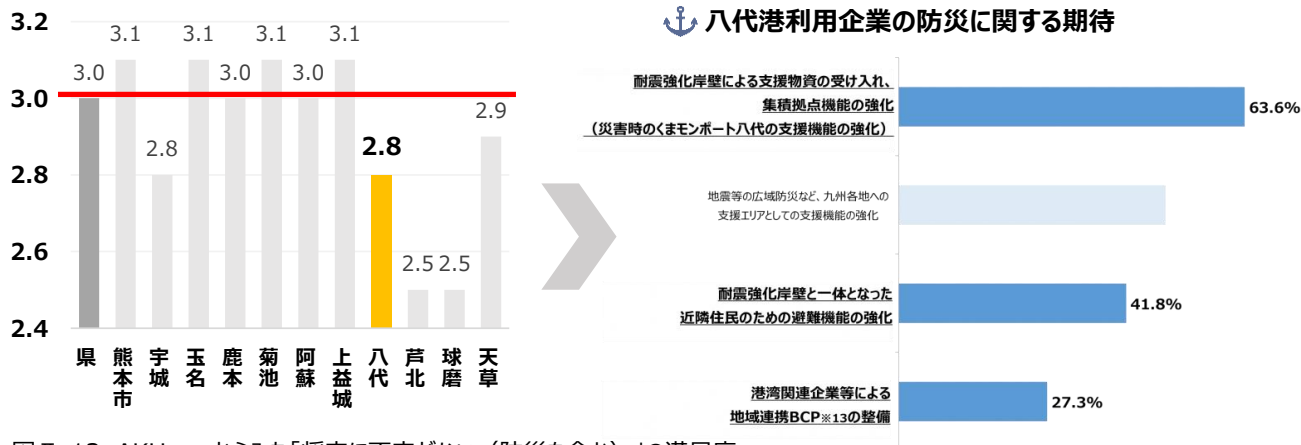


図 II-13 AKH*12 からみた「将来に不安がない（防災を含む）」の満足度
資料：令和3年度県民総幸福量（AKH）調査結果から地方経済総合研究所が作成

② 広域防災への貢献

課題	今後懸念される巨大地震等に備えた広域防災の必要性が高まる中、九州を支える拠点として機能するための支援体制の充実が必要になっています。複数の都道府県に被害が及ぶような大規模災害発生時には陸路の寸断なども懸念され、多様な救助・支援ルートの構築が課題となっています。
期待	九州の中心に位置する八代港においては、地理的利点を活かした緊急物資輸送や広域支援の拠点としての機能強化が期待されています。



図 II-14 広域防災拠点としての八代港
資料：熊本県「九州を支える広域防災拠点構想」

*11 レジリエンス：困難や脅威に直面している状況に対して、「うまく適応できる能力」「うまく適応していく過程」「適応した結果」を意味する言葉のこと
*12 AKH：「Aggregate Kumamoto Happiness」の略で、熊本県が独自に作成する県民の幸福度に関する指標。幸福の要因を「夢を持っている」「誇りがある」「経済的な安定」「将来に不安がない」の4つに分類し、各分類に属する項目の「満足度」をアンケートで測定し指数化なお、「将来に不安がない」の項目では防災治安に関する満足度を測っている。
*13 BCP：事業継続計画。災害などの緊急事態が発生したときに、企業が損害を最小限に抑え、事業の継続や復旧を図るための計画。

(4) 港湾エリアの活用

① 持続的発展に向けた土地利用

課題

八代外港工業用地が完売するなど、港の後背地において増加する原木輸出に対する蔵置場不足が顕著となっていることから、八代港の将来的な発展に向けた新たな事業用地の確保が課題となっています。

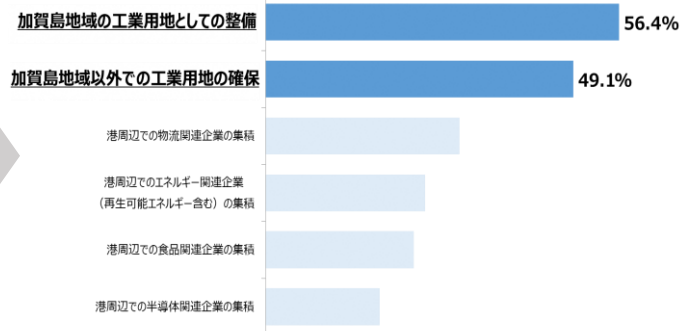
期待

2021年11月の港湾計画変更に伴い、加賀島地区の原木集貨拠点や工業用地としての発展が期待されるとともに、新たな工業用地の整備が望まれています。



資料：九州地方整備局 熊本港湾・空港整備事務所

八代港利用企業の産業集積に関する期待



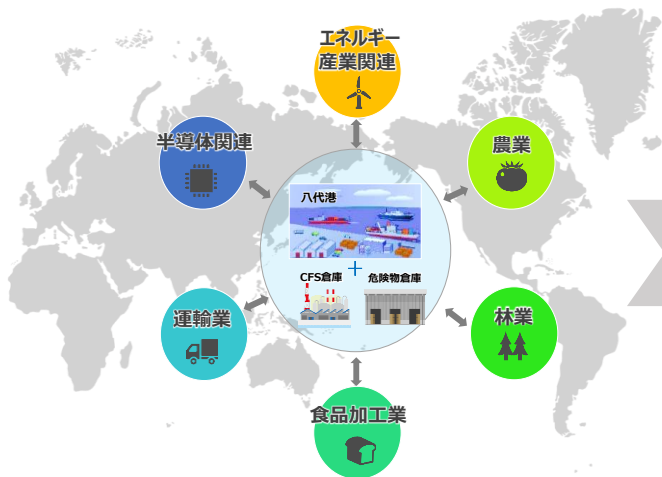
② 地域企業にとってのビジネスチャンスの拡大

課題

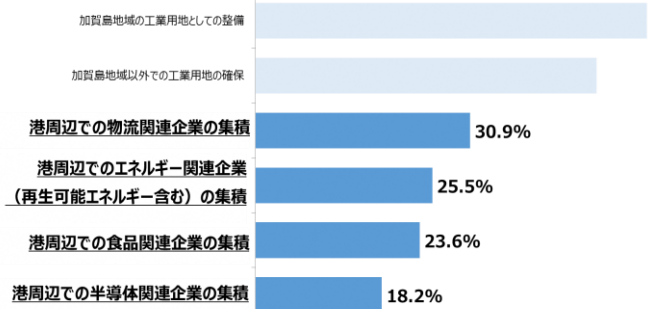
八代港近隣には多くの企業が立地していますが、市内経済の発展のためには個々の企業の成長を支援し、新たな投資・産業集積を促進させることが必要です。

期待

土地の有効活用や CFS 倉庫など港湾設備の充実により貿易港としての魅力を向上させることで新たな投資を呼び込み、物流、食品、半導体、エネルギー関連産業など様々な企業の集積を図っていくことが期待されています。



八代港利用企業の産業集積に関する期待



図Ⅱ-15 貿易港として成長する八代港

資料：公益財団法人地方経済総合研究所作成

③ 港湾労働者の人材確保

課題	人口減少、少子高齢化の進展により、港湾事業をはじめとしたあらゆる産業において、労働力不足が大きな課題となっています。
期待	特に女性の就業率が低い港湾事業をはじめとして、ダイバーシティ*14 促進、女性や高齢者が働きやすい環境整備を進めることで、人材不足の解消を図っていくことが期待されています。

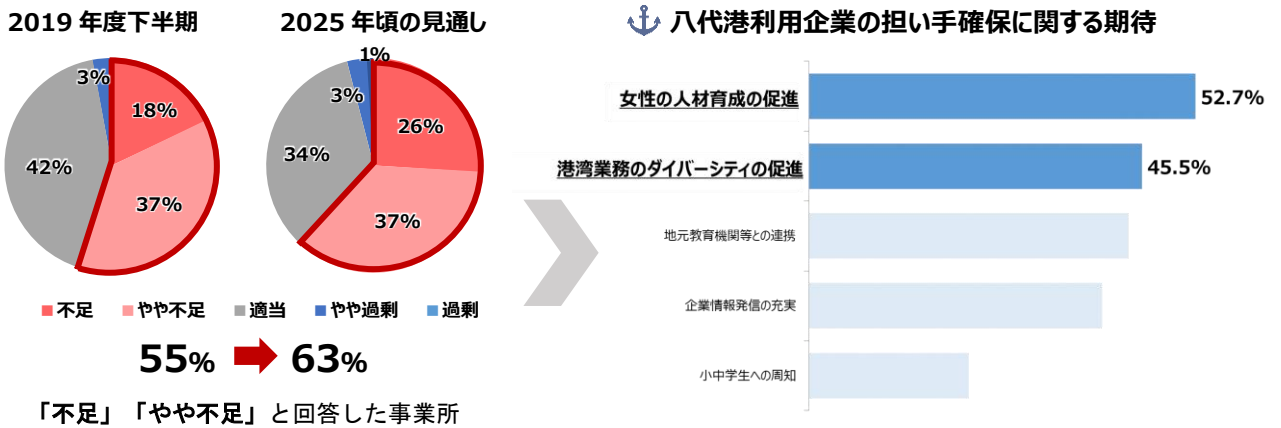


図 II-16 港湾労働者の不足感

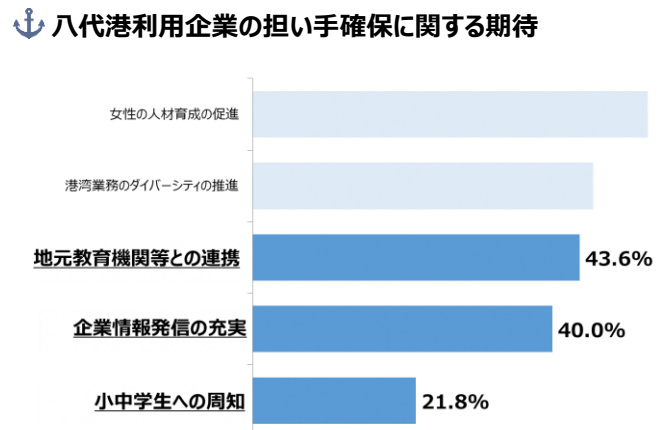
資料：国土交通省港湾局「令和4年港湾労働者不足対策アクションプラン」

④ 情報発信

課題	港湾業務は海上運送と陸上運送とをつなぐ必要な役割を担っていますが、港湾内作業であることから仕事に対するイメージが持ちづらく、職業認知度が低いことが課題となっています。
期待	小・中学校をはじめ教育機関との連携による職場体験やインターンシップの充実により、認知度の向上や将来的な雇用促進が期待されています。



「みなとのおしごと見学会」2022.8.19



*14 ダイバーシティ：多様性という意味の英単語（diversity）で、国籍、性別、年齢などにこだわらず様々な人材を登用し、多様な働き方を受容していこうという考え方

⑤ 港湾のスマート化・デジタル化

課題 八代港のコンテナ取扱量は年々増加している一方、港湾業務の効率化が進んでいないことから、業務の煩雑化や搬出入トレーラーの混雑が発生しています。

期待 港湾物流業務の電子化を進めることによる運送車両の待ち時間の低減や、デジタル技術を活用した港湾のスマート化、強靱化が期待されています。



八代港利用企業の ICT 活用に関する期待

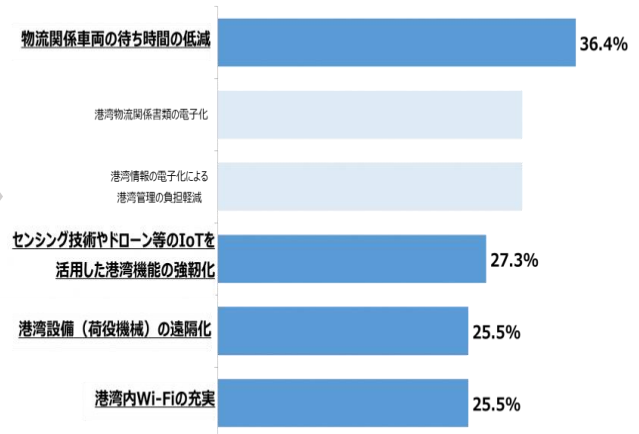


図 II -17 情報通信技術を活用した港湾のスマート化・強靱化
資料：国土交通省「PORT 2030」関連プロジェクト

⑥ 港湾地域の脱炭素化（カーボンニュートラル）

課題 温室効果ガスの削減に向けて国際的な取組みが加速するなか、市内産業が集積する八代港においても脱炭素化のための取組みを進めていくことが課題となっています。

期待 港湾物流の脱炭素化だけでなく、背後企業による生産活動での CO₂ 削減、ブルーカーボン^{*15} など自然環境を利用した CO₂ 吸収量増加など複合的な取組みが期待されています。



八代港利用企業の脱炭素に関する期待

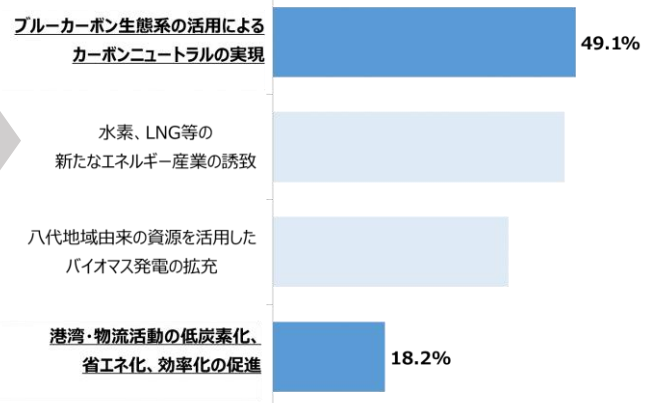


図 II -18 カーボンニュートラルポート形成計画（イメージ図）
資料：国土交通省「CNP 形成計画イメージ」（2021年12月）

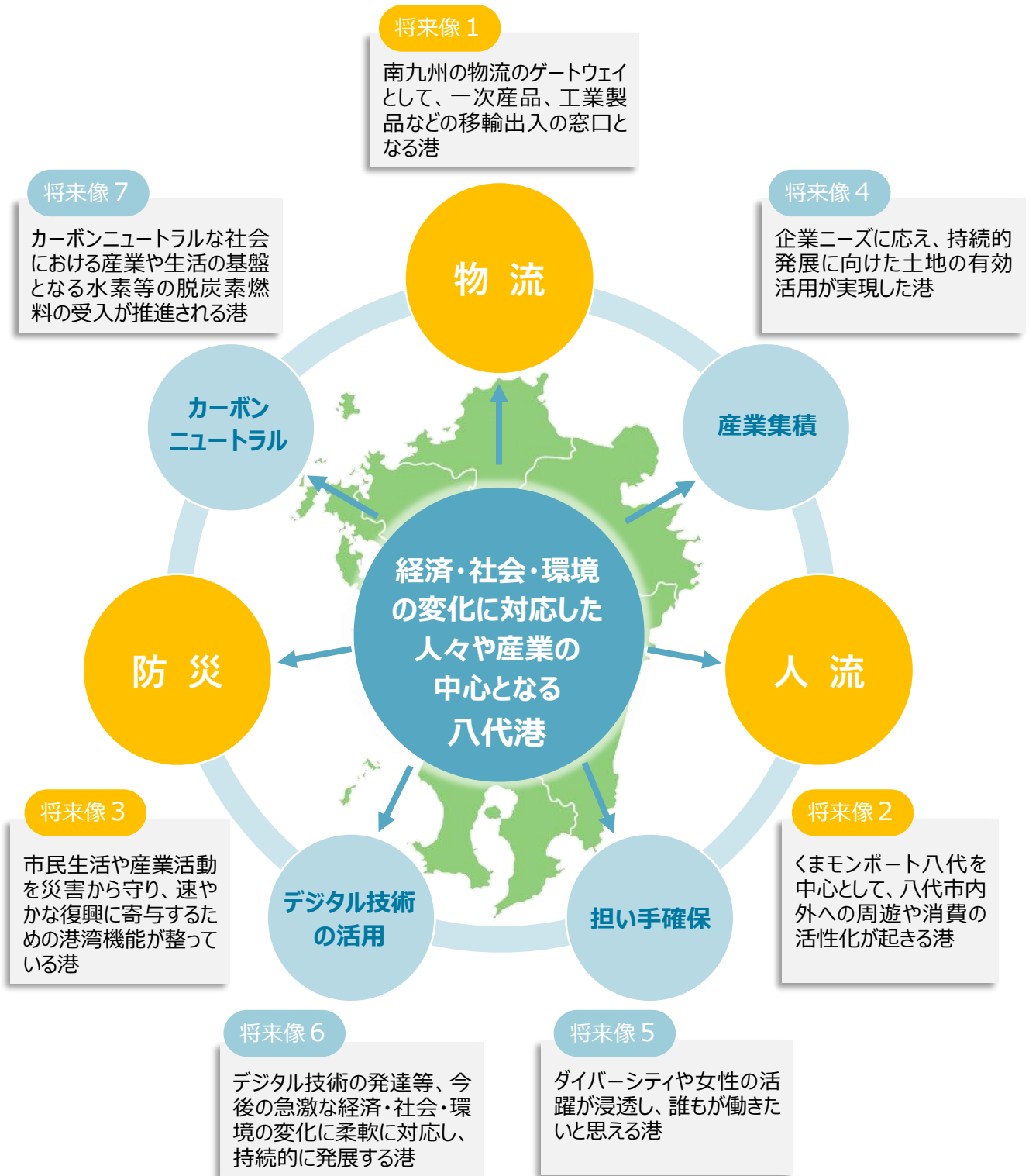
*15 ブルーカーボン：海洋生物の作用により、大気中から海中へ吸収された二酸化炭素由来の炭素のこと。

Ⅲ. 成長に向けた事業展開

1. 八代港の将来像	23
八代港の将来イメージ	24
2. 将来像	26
(1) 物流	26
(2) 人流	28
(3) 防災	30
(4) 産業集積	32
(5) 担い手確保	33
(6) デジタル技術の活用	34
(7) カーボンニュートラル	35

1 八代港の将来像

課題の整理と八代港利用企業の期待をもとに、「物流」、「人流」、「防災」の3大機能に加え、時代の潮流として求められている「産業集積」、「担い手確保」、「デジタル技術の活用」、「カーボンニュートラル」の4つの機能を加えて成長する八代港の将来像を、以下のように定めます。



図Ⅲ-1 八代港の将来像

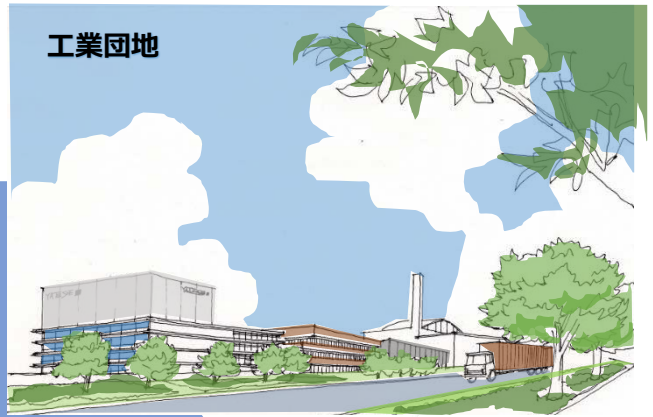
【八代港の将来イメージ】

八代の賑わい



図Ⅲ-2 八代港の将来イメージ

工業団地



加賀島地区



新橋架橋

くまモンポート八代

サイロ

耐震強化岸壁

バルク船

クルーズ船

水深 14m 航路

木材埠頭

木材バルク

舟出浮き

2 将来像

(1) 物流



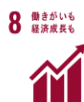
八代港ではさらなる利便性向上により国際貿易港としての競争力が増し、バルク貨物に関しては背後企業との連携強化により貨物量が増加するとともに、大型船に対応するための航路整備が図られています。

国際コンテナに関しても、コンテナターミナルの充実により中国や東南アジア向け新規航路が就航し、半導体関連や農産物等新たな貨物の集貨により取扱量が大きく増加しています。

併せて、八代港と八代 IC とを結ぶ高規格道路の整備、港湾エリアの動線の整理など効率的な物流ルートの確立により、南九州の物流集積に対応した拠点港としてさらなる機能強化が進められています。

将来像 1

南九州の物流のゲートウェイとして、一次産品、工業製品などの移輸出入の窓口となる港



図Ⅲ-3 物流の将来イメージ

将来像実現に向けた取組み

1. 現在取り組んでいる事項		短期	中期	長期
<p>(1) 八代港利用拡大に向けた戦略的なポートセールスの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 貨物集貨のための荷主向け助成事業の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際コンテナ定期航路利用企業への支援 ・ リーフアーコンテナ利用企業への支援 ・ 八代港未利用企業へのトライアル支援 ② 船社向け助成事業の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新規航路就航時の船社への支援 ③ 貨物獲得、航路充実のための企業・船社訪問の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 熊本県、八代市、民間事業者一体となった企業訪問 <p>(2) 農林水産物輸出拡大へ向けた地場企業の支援 輸出拡大を図るための海外展開の支援</p>				
2. 今後取り組んでいく事項		短期	中期	長期
航路サービスの拡充	■ 水深 14m航路の整備	↔		
	■ 中国への新規コンテナ航路の誘致	↔		
	■ 東南アジア、その他地域への新規コンテナ航路の誘致		↔	↔
移輸出入の拠点化	■ 半導体関連貨物の集貨	↔		
	■ 取扱量増加を見据えたコンテナヤードの拡張	↔	↔	↔
	■ DX を活用した港湾物流機能の効率化	↔	↔	
	■ 県産木材等の取扱量増加に伴う円滑な荷役環境整備	↔		
	■ CIQ*16 の検査体制の充実	↔	↔	
	■ 処理能力向上のための荷役機器の高度化		↔	↔
	■ 八代・天草シーライン整備による新たな貨物の集積			↔
	■ サプライチェーン強化のための高規格道路整備			↔
地域産業の強化	■ 海外での農林水産品等のプロモーション活動	↔	↔	↔
	■ CFS 倉庫の利用促進	↔	↔	↔
	■ 地域事業者に対する販路拡大の支援	↔		
	■ 競争力確保のための支援体制の充実	↔		

*16 CIQ： 税関(Customs)、出入国管理(Immigration)、検疫所(Quarantine)の略で、貿易上必要な手続き・施設のこと

(2) 人流



くまモンポート八代を活用した各種イベントの開催や近隣施設へのアクセス向上など八代市内の周遊促進に加え、八代港で快適に過ごすことができる飲食施設や娯楽施設が充実することで、港を起点とした市内外からの誘客による経済効果の創出が図られています。

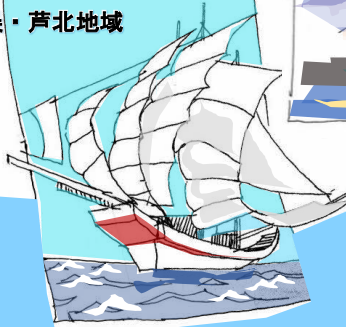
また、八代港と天草地域を結ぶ「八代・天草シーライン」の実現により、クルーズ船寄港時の観光面において多様かつ新しい価値が創出され、地域経済の好循環が生まれています。

将来像 2

くまモンポート八代を中心として、八代市内外への周遊や消費の活性化が起きる港

- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任

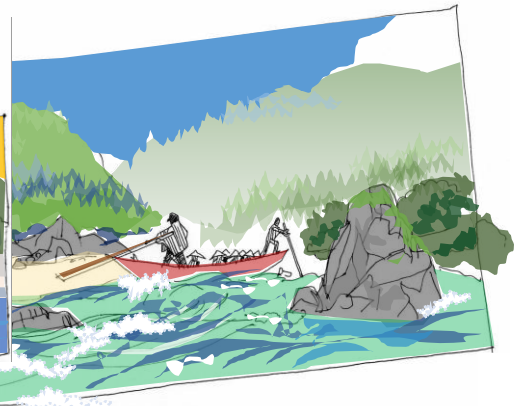
水俣・芦北地域



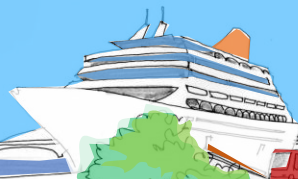
天草地域



人吉・球磨地域



シーライン

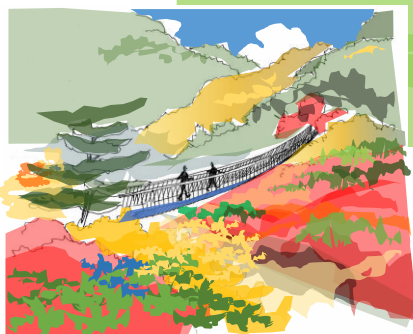


くまモンポート



くまモンポート八代を玄関口とした地域内外の観光拠点化

インバウンドの受け入れ体制が充実したクルーズ拠点形成



五家荘



日奈久温泉

図Ⅲ-4 人流の将来イメージ

将来像実現に向けた取組み

1. 現在取り組んでいる事項

- (1) 戦略的なポートセールスの推進
- ① 寄港誘致のための取組み
 - ・ 船社への積極的な誘致活動
 - ② 受入環境の整備
 - ・ 県内自治体と連携した観光ルートの開発
- (2) 南九州のゲートウェイ「八代港」の利用促進
- ① くまモンポート八代の利用促進
 - ・ イベント開催やイベント誘致による利用促進
 - ・ みなとオアシスの活用による港湾エリアの活性化
 - ・ くまモンポート八代内への観光案内所の設置
 - ② クルーズ船による地域の活性化
 - ・ 八代地域を核とする新たな観光プログラムの造成
 - ・ 広域連携による周遊ルートの開発及び PR 活動
 - ・ 官民一体となったおもてなしの推進
 - ・ 観光地における感染症対策などの安全対策

2. 今後取り組んでいく事項

		短期	中期	長期
クルーズ 拠点形成	■ ポートセールスの強化による寄港回数の拡大	←————→		
	■ クルーズ客に対する地元消費型旅行商品の開発	←————→		
	■ クルーズ船寄港に対応した食料等供給機能の充実	←————→		
	■ くまモンポートでのイベントの充実（くまモンポートの有効活用）	←————→		
	■ 多言語観光 WEB サイトの充実	←———→		
	■ 多言語対応市内公共交通マップの充実	←————→		
	■ 観光と物流の最適なゾーニング			←———→
地域内外の 観光拠点化	■ 観光客に対する広域連携による旅行商品の開発	←————→		
	■ 地域資源を活かしたアウトドアツーリズムの開発	←————→		
	■ レール&クルーズ等 FIT 旅行者に対応したサービスの開発	←————→		
	■ ヘリポートの設置による市内外周遊客の誘客	←————→		
	■ MaaS 等の新技術の導入による移動の利便性向上	←————→		
	■ 八代・天草シーラインを活用した観光、消費活動の充実			←———→
	■ 飲食施設や娯楽施設の充実			←———→

(3) 防災

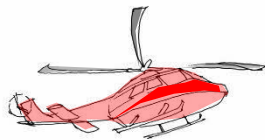


災害時においても機能する防災・減災対策を備えた港としてハード整備が進み、ソフト面においても関係機関・地域企業の連携による支援体制の構築が進められています。

広域災害発生時における海上支援の拠点として位置づけられている八代港は、耐震強化岸壁を活用した支援体制の充実が図られています。

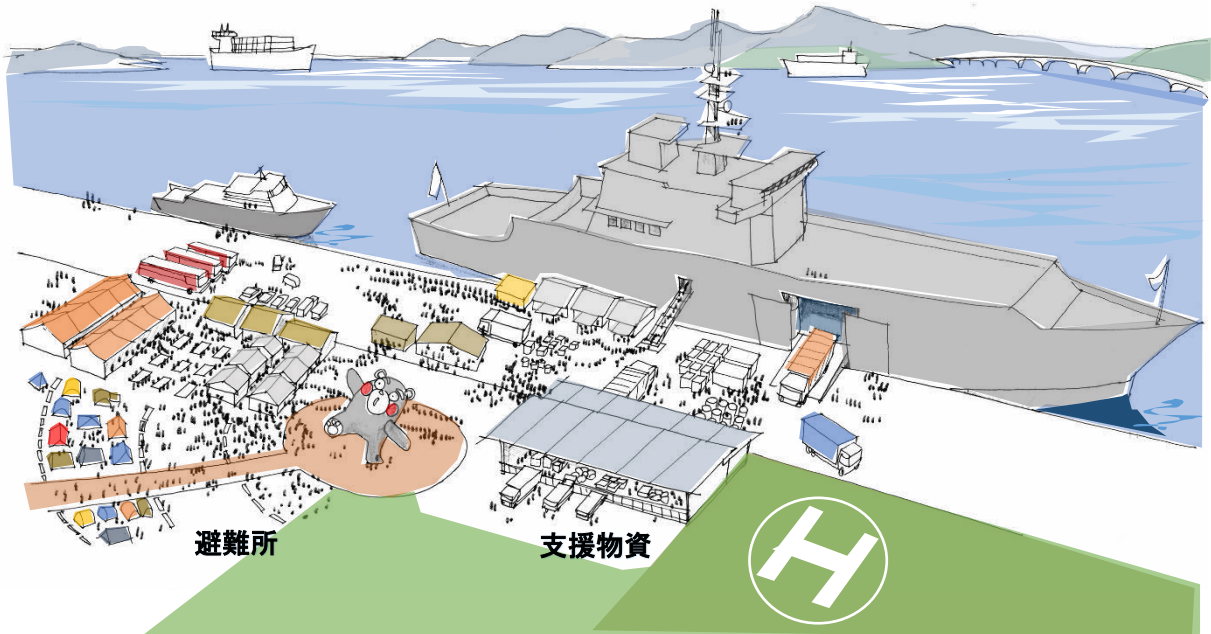
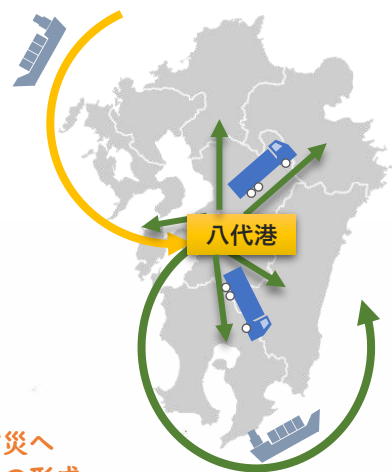
将来像3

市民生活や産業活動を災害から守り、速やかな復興に寄与するための港湾機能が整っている港



地域のレジリエンス向上に貢献する拠点の形成

九州の広域防災へ貢献する拠点の形成



図Ⅲ-5 防災の将来イメージ

将来像実現に向けた取組み

1. 現在取り組んでいる事項

(1) 災害に強く安心して暮らせるまちづくり

①多様な担い手による防災の推進

- ・ 学校や地域と連携した防災人材の確保・育成
- ・ 防災の取組や災害時の応急対応に関する防災協力企業等の確保

②防災・減災のための基盤整備

- ・ 避難所のほか、民間と協力した多様な避難先の確保
- ・ 代替輸送路や避難路として活用可能な道路網の強靱化

③先進技術を活用した防災・減災の推進

- ・ ICT や AI を活用した防災情報の発信・収集体制の構築
- ・ 防災への新たな技術の導入促進

2. 今後取り組んでいく事項

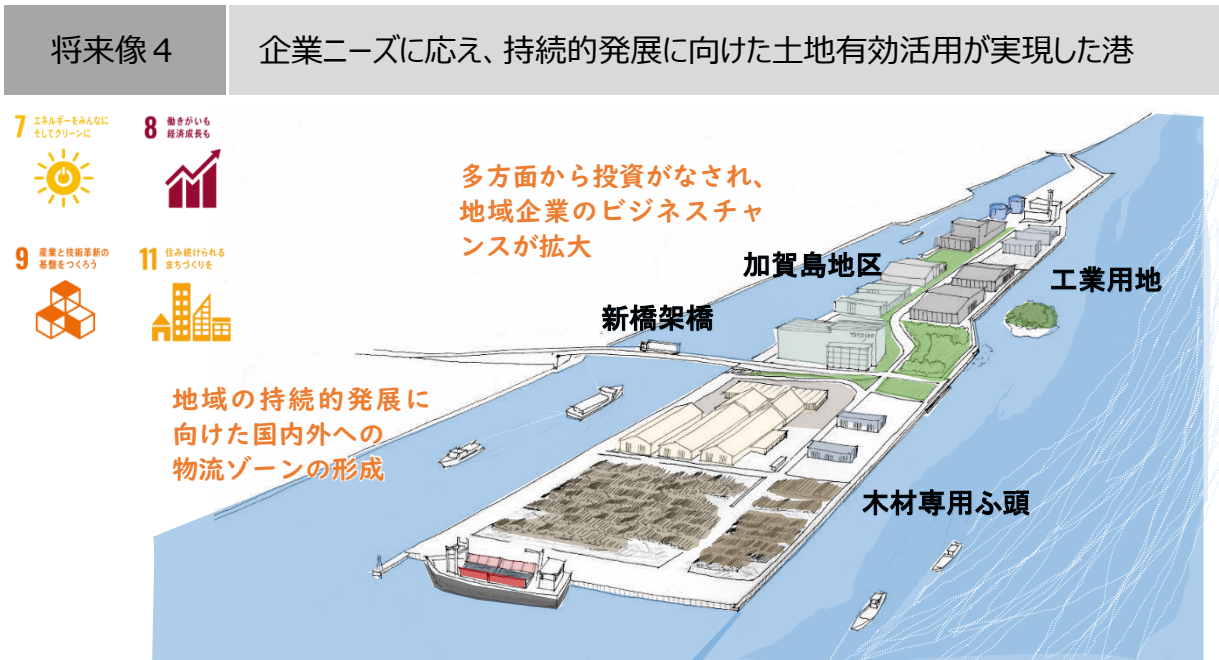
		短期	中期	長期
地域のレジリエンス向上	■ 災害時の避難地としての活用	←→		
	■ 避難所としての港湾企業との協力体制の強化	←→		
	■ 耐震強化岸壁と一体となった災害時の人員、物資等の輸送体制整備	←→		
	■ ヘリポート設置による空輸ルートの確保	←→		
	■ 災害時の貨物集積拠点としての活用	←→		
	■ 防潮堤・水門の整備	←→		
	■ 港の地理的特長を活かした災害廃棄物の受入協力体制	←→		
	■ 地域連携 BCP（事業継続計画）による非常時の協力体制の整備	←→		
	■ 避難エリアへの再エネ導入による分散型電源の確保	←→		
広域防災への貢献	■ 倉庫を活用した支援物資の一時保管などバックアップ機能の強化	←→		
	■ 南海トラフ地震など非常時の広域防災体制の確立	←→		
	■ 大型支援艇も入港可能な水際 14m 航路の整備	←→		
	■ 大量の物資等の受入可能な岸壁の整備	←→		
	■ 八代・天草シーラインを活用した避難、災害派遣ルートの確立	←→		

(4) 産業集積



加賀島地区を中心とした土地利用や企業誘致が進んでおり、八代港周辺の持続的発展に向けた土地利用の転換が行われ、新たな産業集積が進んでいます。

また、八代港の成長により産業拠点としての魅力が向上し、物流、食品加工、半導体、エネルギー関連企業の集積が飛躍的に拡大しています。後背地産業の育成や新規ビジネスの創出など、地域企業の持続的な発展にもつながっています。



図Ⅲ-6 産業集積の将来イメージ

将来像実現に向けた取組み

1. 現在取り組んでいる事項

- (1) 八代港利用企業の誘致推進
 - ①企業立地補助金等の活用
 - ・ 県内企業が八代市へ進出する際の支援
 - ・ 県外企業が八代市へ進出する際の支援
 - ②工業団地等工業用地の確保
 - ・ 新八代駅周辺及び企業誘致用地整備推進本部の運営
- (2) 半導体関連貨物獲得に向けた情報収集
 - ・ 八代港利活用等推進本部会議の運営

2. 今後取り組んでいく事項

		短期	中期	長期
持続的発展に向けた土地利用	■ 港湾エリアを含めた新たな工業団地の検討・整備	←—————→		
	■ 加賀島への交通アクセス改善、企業誘致	←—————→		
	■ 加賀島の工業用地整備	←—————→		
地域企業にとってのビジネスチャンスの拡大	■ 半導体関連貨物の集積に向けたコンテナヤード効率化	←—————→		
	■ バルク、コンテナ貨物増につながる企業誘致、背後企業の成長促進	←—————→		
	■ 市内エリア全域での企業誘致（物流、食品、半導体、エネルギー関連）	←—————→		

(5) 担い手確保



港湾業務をはじめとした市内のあらゆる産業においてスペシャリスト育成やダイバーシティが促進されており、多様な人材が働きやすく、働きがいのある雇用環境が整っています。

また、港湾業務の情報が幅広く発信され、市民が親しみをもって気軽に足を運ぶ身近な港として八代港の景観や雰囲気づくりが進んでいます。

将来像5 ダイバーシティや女性の活躍が浸透し、誰もが働きたいと思える港



図Ⅲ-7 担い手確保の将来イメージ

将来像実現に向けた取組み

1. 現在取り組んでいる事項

- (1) ソフトインフラの充実
 - ① 国際物流や港湾関係業務に強い人材の確保や育成
 - ・ 若手経営人材の育成や就業資格取得のための支援
 - ・ 教育機関と連携したインターンシップや見学会の実
 - ② 担い手確保のためのダイバーシティの推進
 - ・ 女性や高齢者、外国人が働きやすい環境整備
- (2) 人材確保
 - ・ ハローワークや八代圏域雇用推進センター等との連携

2. 今後取り組んでいく事項

		短期	中期	長期
港湾関連業務の人材育成	■ 移住定住促進による長期的な担い手確保に向けた取組み	←→→→		
	■ 港湾関係資格取得の支援	←→→→		
	■ 就職、定着につながる港湾関連企業の雇用体制構築の支援	←→→→		
	■ ICT 活用に向けた人材育成	←→		
	■ 港湾全体の生産性向上のための労働環境整備	←→→→		
	■ 業務量の平準化やワークライフバランスの推進	←→→→		
	■ 個々の能力を勘案した勤務の工夫、職場環境整備	←→→→		
情報発信	■ 八代・天草シーラインを活用した雇用確保			←→
	■ 港湾関連企業の情報発信	←→		
	■ インターンシップや見学会など市内教育機関との連携	←→		

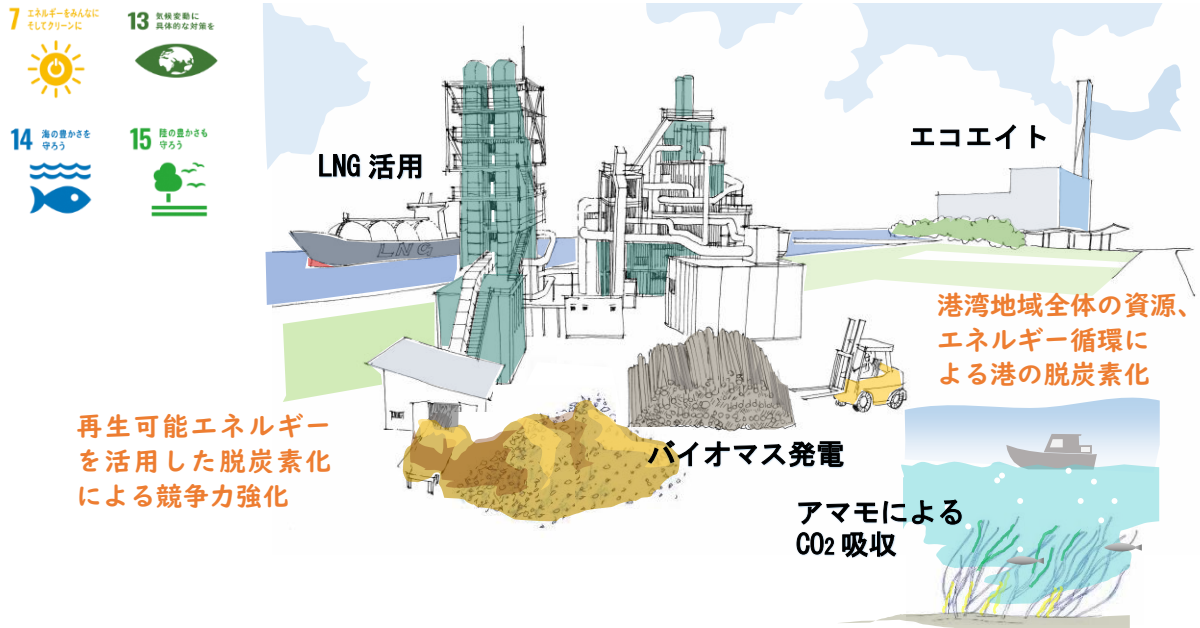
(7) カーボンニュートラル



港湾物流に加え、背後地に立地する企業でも CO₂ 削減に向けた取組みが浸透し、八代港における脱炭素化が進んでいます。

また、自然環境に恵まれた八代海の特徴を活かしたブルーカーボン生態系が形成され、良好な海洋環境の維持、再生による CO₂ 吸収量増加のための取組みが広がっています。

将来像 7 カーボンニュートラルな社会における産業や生活の基盤となる水素等の脱炭素燃料の受入が推進される港



図Ⅲ-9 カーボンニュートラルの将来イメージ

将来像実現に向けた取組み

1. 現在取り組んでいる事項

- (1) 地球温暖化対策の推進
 - ・ 市民・事業者への再エネ・省エネ設備等導入に対する支援
 - ・ 再エネ発電企業の誘致
- (2) 環境意識の向上
 - ・ カーボンニュートラルへの取組み
 - ・ エコエイトを活用した環境学習の推進

2. 今後取り組んでいく事項

		短期	中期	長期
港湾地域の脱炭素化	■ モーダルシフトの推進による CO ₂ の削減	←→	←→	
	■ 環境負荷軽減のための港利用の促進	←→	←→	
	■ 脱炭素社会の実現に向けた取組周知・啓発活動の推進	←→	←→	←→
	■ 行政と民間事業者との連携による CO ₂ 削減の取組み	←→	←→	←→
	■ エネルギーシフトへ向けた再エネ・省エネ設備の普及、利用促進	←→	←→	
	■ 港湾内の事業用電力の地産地消		←→	←→
	■ ブルーカーボンの活用		←→	←→
脱炭素化による競争力強化	■ バイオマス発電の燃料受入れ供給拠点の形成	←→	←→	
	■ 産業立地のための環境整備	←→	←→	
	■ 水素、燃料アンモニア等の受入環境の整備			←→

八代港を核とする将来的な成長ビジョン

令和5年（2023年）3月

八 代 市

